石岡市立東成井小学校
学校だより　３６号
令和６年２月　８日
校長　　石崎　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

面倒くさくなったら、Back to the basic！

大雪が心配された今週初めでしたが、特に大きな影響もなく、児童の学校生活がいつもどおりに戻っています。私は「なるいっこ」たちの学習の様子を見るのが好きで、今日も時間を見つけて授業を覗きに行かせてもらいました。

あるクラスでは、漢字の練習に取り組んでいました。一生懸命にノートに漢字を書き写している様子を私が覗き込むと、「校長先生、書くのが面倒くさいです」と話しかけられました。「繰り返し書くことで学ぶこともあるんだよ」と声をかけました。「校長先生も書いてみてください」と言われたので、一語ずつ「お手本だよ」と言って私も書かせてもらい、「校長先生が書いた文字と同じように書いてみてね」と伝えました。子どもたちは、気を取り直して、また集中して書き始めました。

また、あるクラスでは、家庭科の調理実習で「ご飯とみそ汁」を作っていました。ご飯はガラスの鍋を使って炊きます。みそ汁ははじめに昆布や煮干しで出汁（だし）を取ります。今は「炊飯器」「無洗米」「出汁の素」などお手軽で便利なものがあります。調理実習のやり方は「アナログ的」で面倒くさそうですが、聞いてみると「校長先生、楽しいです」とどの子も笑顔で取り組んでいました。家庭科室には、料理ができあがる直前の、あのおいしそうな匂いに包まれていました。

子どもたちの学習もしかり、私たちの仕事もしかり、すべてが「楽しく、充実」して進められれば、これに越したことはありません。子どもたちが「学び」でも「遊び」でも、「楽しく」取り組めていれば、自然と身に付くことは多くあるものです。逆に、やらなければいけないことの中には「面倒くさい」ことが往々にしてあるのは、子どもも大人も同じかもしれませんね。そんなことを考えました。

私は難しいことに直面したときに「Back to the basic～原点に戻ろう！」と口にしています。「物事が複雑化してきたときに、原点に戻って何が重要かを考え直す」といった状況で使われる表現です。

面倒くさい漢字練習でも「漢字の読み書きの力を身に付けるため」には必要であることは、きっと子どもたちもわかっていることでしょう。ならば、そこを原点として、どうすれば「楽しく、充実」して学べるかのヒントを、私たち教職員はいっしょに考えていきたいと思っています。ぜひ、保護者の皆様も、思い付いた「ヒント」をお子さんに声かけしてみてはいかがでしょうか。「原点に戻って、基本をしっかり身に付ける」、それが「自ら取り組めるもの」であれば、なるいっこの「基礎力アップ」はもちろんのこと、「ものの見方・考え方」も広がるのではないかと思います。

ちなみに、調理実習の「ご飯とみそ汁」づくりは、「伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解し、手順に沿って調理すること」をねらいとしています。「炊飯器を使わなくてもご飯が炊ける」体験は、子どもたちには新鮮だったようです。新鮮な発見は「面倒くさい」と感じる領域を越えるのですね。「面倒くさい」から「やらない」「適当でいい」ではなく、原点に戻って「〇〇ができること」を明確にして、いかに「楽しく、充実」したものにしていくか、私も引き続き考えていきます！